

安曇野市まちづくり推進会議 第2回ワーキンググループ
(区の意義や重要性の理解促進部会)

- 1 会議名.....安曇野市まちづくり推進会議第2回ワーキンググループ.....
- 2 日 時.....令和元年11月7日(木) 午後1時30分から午後3時30分まで.....
- 3 会 場.....安曇野市役所 本庁舎 3階 共用会議室 305.....
- 4 出席者.....田村会長、熊井副会長、大澤副会長、中樞委員、瀧澤委員、増田委員、大神委員、
藤松委員、玉井委員、小口委員、猿田委員、妹尾委員、堀井委員、望月委員、
宮崎委員、野中委員、土屋委員(地域おこし協力隊).....
- 5 担当課出席者.....宮澤市民生活部長、地域づくり課 山田課長、青柳係長、矢下主査、藤原主事.....
- 6 公開・非公開の別.....公開.....
- 7 傍聴人 1人.....記者 1人.....
- 8 会議概要作成年月日.....令和元年11月18日.....

協 議 事 項 等

1 会議の概要

- (1) 開会
- (2) あいさつ【田村会長】
- (3) 前回欠席委員の自己紹介
- (4) ワーキンググループ【進行：宮澤部長】
 - ① 区の意義
 - ② 区の意義を理解してもらうために、また区加入のために区や市区長会は何をすべきか。
 - ③ その他
- (5) 閉会

2 会議事項概要

- (1) 「安曇野市まちづくり推進会議 第1回ワーキンググループ」について

※事務局より資料に基づき説明
追加等なし

- (2) ワーキンググループ

議題：区の意義をどのようにして伝えていくか。

事務局 区長会が目指す方向性、各種マニュアルの内容を各区長になかなか伝えていけない。また、区長会等を通じて区長に理解していただいても、さらに区民に伝えていくことが難しい。これらの課題に対して、それぞれの立場から「こうしたらどうか」というご意見をいただきたい。まず、市区長会における83区の区長への情報共有についてどういう状況か。

委員 まず新人区長は4月に地域づくり課から様々な資料を受け取り、それらを読み込んで取り組むべき内容を理解する必要がある。さらに市から依頼される様々な調査のメ切が8月にある。それらが仕事としてかなりのウェイトでのしかかってくる。過去の資料が整って残っていればいいが、そうでなければ自らの足で地区を回り回答を作成しなければならない。(カーブミラー設置希望、

道路修理等)。また、提出してもすぐにすべて対処されるわけではないので、過去に要求したものを再度提出していく必要がある。

区が抱えている安全上の課題の整理および報告書の作成といった仕事に時間がかかり、年度の半分はあっという間に過ぎてしまう。さらに、通学路の安全確保やゴミの出し方のルールを守っているかどうかの確認といった、区民から出される改善要求に対応するのにも時間がかかる。

そのため、区の運営をどう思うかといったことやどこが悪いかといったことを話し合う機会もない。また、昔のように大勢でイベントをやるといったことが難しくなっている。集まっても役員だけということがある。区役員が決めたことをやるのではなく、区民からやりたいといった声がある企画を進める方がいい。そこで最近は今まで以上に手厚くサークルなどの趣味活動をもりあげていこうという方向になっている。息の合った人たちで行う活動が長く続いていくと感じている。

委員

昨日の区長会研修会で部制度や NPO 法人との連携といった内容について講義を行った。質問の時間もあったが、その場では発言が出なかった。後でいろいろ言うのではなく、反対意見があるならきちんと発言してほしい。言ってもらわなければ改善していくことができない。

明科は 14 区中 7 区が部制度を導入しているが運営において苦勞している。反対する一部の区民に理解してもらうことに相当なエネルギーを使っている。自分の地区は高齢化が進んだ山間部であり、区の意義を伝えたところでそれほど理解してくれない。区役員などは活動の方針を考えて示し区民に理解してもらえるように努力するべき。そして実際に行動するのは区民。ところが組長の中でも理解してくれない人もいる。マニュアルは厚くて読むのも大変なため、もっと簡素化できないか。具体的なことを簡潔に語ってほしい。細かい説明はそれぞれの区で考えればよい。

民生児童委員やそれぞれの役員は、その組織や役のなかではよく動いてくれる。(社会福祉委員が一人暮らしのお年寄りによく声をかけてくれている。)

事務局

区長会研修会で意見が出なかったことを指摘していただいたが、どういった形であれば意見を出してもらえるか。

委員

この会議のようにワーキンググループでざっくばらんに聞くといいのではないか。思ったことを素直に言ってもらえるようにする必要がある。

事務局

コミュニティマニュアルを作成した側としてはどうお考えか。

委員

確かに分厚いが、区民への伝え方には 83 通りのやり方があってしかるべき。ある区では組長及び 3 役で会議して、区民に何を集中的に伝えていくのか考えた。このマニュアルを

いかに加工して伝えていくかが区の執行部の仕事であり、その上で部制度等の組織を活用していく企画力がカギを握っていると思う。

各区で総会を開催していると思うが、大勢集まってそこで話をしてもまとまることは難しい。83 人もの区長が集まる研修会といった場で意見が出ないことを嘆くのではなく、各地域区長会でフォローアップし、いろいろな課題を検討していくことが大事だと考える。

区長を務めていた平成 28 年度に各地域区長会を強化・充実してほしいと言ってきたが、なかなか進んでいない。新人研修に関しても、新人の区長いきなり詳しいことを言われてもわからないので、まず何を心得なければいけないかを重点的に教えるようにしてほしいということを言ってきたが、変わっていないようだ。出された反省点がまったく改善されていないというところが問題である。

マニュアルについては、区の運営で困ったときに参考にして活用してくれればいい、時折開く程度で、開かなくて済むなら何よりと考えている。区の運営については、ほとんどの人は普段は無関心で、水や電気といったライフラインと同じような感覚でいて、全体の 1～2 割の方が共感して行動してくれるくらいだと思っている。区のあり方をこうだと決めるのは難しい。困ったときや先ほど中楨委員が言われたように安全上の問題が生じたときに対処するような、気楽なコミュニティ運営が無理なく長く続く秘訣ではないかと思った。

事務局 土屋委員は市区長会事務局を務め、専門部会にも参加する中でどう考えるか。

委員 専門部会への参加や、事務局で区長さんたちと関わる中で、次の代にうまく引き継いでいないといった課題や、区長は区の仕事で忙しく、区長会での取り組みがなかなか伝わっていないということを感じている。今年初めて新旧の正副区長会長の懇談会を開催しざっくばらんに話ができたことで、やっとスタート地点に立てたと感じている。

OB の方々は現役の邪魔をしてはいけないという気持ちでいるのか、大事なことで伝えていない場合もあるのではないかと。事務局が言うよりも、実際に区長を経験されている方の話の方が説得力があるので、区長会としても引き継ぎに力を入れていかなければいけない。

委員 区長会で柏市や宇都宮市に研修にいったが、市と区長会の間に入り新人区長の相談に乗ってくれる、区長などの役員 OB で組織される市民活動団体があった。安曇野市の何倍もある自治体での取り組みで、安曇野市はそれほど規模が大きいのでそこまでなくていいとは思いますが、ああいったシステムはいいと感じた。

個人的な見解としては、区民が安心安全に暮らせ、活動できる環境をつくる（道路、水路の整備等）ことが区長の一番の仕事で、その他に「こういったことをやりたい」といった声が区民から出てきたらその補助をするくらいのスタンスの方がいいのではと思って

いる。区長の力量がかかってくるとなると重荷になってしまうので、最低限の安心安全な環境をつくることに専念させてもらえればいいのではないか。また、区は任意団体であり、加入についてはフアジーな感じでやっていくしかないのでは。

委員 ベースの部分を整えるのは当然の仕事で、その上で区を活性化して楽しくて住みやすい地域づくりをする努力を忘れてはいけないと思う。例えば子どもたちが元気に活動できる環境づくりのために、区長が先頭に立ち公民館や社協とタイアップするなどの仕組みを作る努力は大切だと考える。

事務局 続いて、委員の皆様それぞれの立場から、「区はこういった部分で大切だ」というお話をお聞きしたい。

委員 下堀地区の区長を2年間務めたが、その間に部制度を導入した。区役員の負担が多いので組織を減らし、人数も減らした。部制度に対する批判というのは聞いていない。また宅地建物取引業協会としては、転入・転居される方に対して区への加入や区長への挨拶をお勧めしている。

区については、これから加入される方が加入しやすい体制づくりよりも、中楨委員が言われたように、住んでいる方がより安全安心に楽しく暮らすために区の活動をどうしていくか、ということを考えるのが一番大切である。そして、区長を含め多くの区の役員が安心安全な住みやすい地域づくりのために頑張っていることをせめて隣組長レベルが理解し、転入される方に区費が住みやすい地域にするための活動に活用されていることを説明できるようになるのが理想である。

委員 移住定住を目指してくる方に体験セミナーを開催しているが、安曇野で安心安全に暮らすには区に加入するのが一番ですよ、といった話をしている。ただ、そういった時に区がどういったものか説明するのが一番難しい。自分の区のことではわかってても他の区ことはなかなかわからない。区によっては馴染みにくい地域もあるかもしれない。区長のところに行って聞くわけにもいかないので、地域ごとの違いを説明するのにいつも苦労している。

委員 区に関して議論をしていると、区長会などの組織の在り方についての話を中心になるが、実際区民は目の前の暮らしについて関心があるだけで、組織については無関心である。会社のような縦組織ではないので、区の役員が決めて区民に徹底させようというやり方はうまくいかない。地域の課題を地域で解決していこう、それを議論する場がたまたま区だったという形が望ましいのではないか。

NPO で話し合いをするときには、みんなが対等な立場で話し合いをするワークショップ形式で行うが、そうすることで自分たちの課題を解決するために、自発的に考えることができる。自分で考えて行動するから自分事としてとらえて動くことにつながるが、決めら

れたことをやってくれと言われても共感は生まれません。区を実際に歩いて防犯や安全上の問題を発見し、役員だけで対策を考えるのではなく、みんなで考える場をつくり、そこに参加することでこの区に住んでいてよかったと思うことができる。そしてその議論をする場が結果として区だった、というような形が望ましいのではないかと。区に入ってもらえるためにはどうすればいいかではなく、結果として区に入ってもらえればいいのではないかと。

委員

安心安全な地域づくりのための活動や考え方を伝えていくために、民生児童委員としては声掛けなどでコミュニケーションをとっていくことが大事と考えている。コミュニケーションを取りたくないという方も大勢いるが、そういった方にも顔を向けてもらえるようにという思いで見守り活動をしている。

また、アパートは区に加入していない方が多く、結びつきが薄くなってしまっている中で、宅地建物取引業協会などで入居する際にその区のいいところを含めて説明し加入の声掛けをするなど、協力して取り組めたらいいと思う。

区の中では隣組長の役割が大事だと思う。役割をしっかり認識してもらい、でも重荷に感じないように、「隣組長さんの仕事お疲れ様です、ありがとうございます」というように称え、感謝することを心がけていくと、隣組長の役は順番に回り多くの人が経験するため、啓発活動が自然にできるようになる。

委員

隣組長がその地域の良さや区加入の良さを転居してくる方にアピールしないと区に入ってもらえないと思うので、隣組長について理解してもらうための会合を設けたり、困りごとがあったときに相談できるシステムがあるといい。

委員

自分も現在隣組長を務めており、福祉員を兼ねているということで、集金のついでに声掛けをしている。そのうち東京に行くから新聞を家の中に入れておいてほしい、生協の重い荷物受け取っておいてほしい、といったちょっとした困り事から、生活の上での悩みを相談してもらえるようになり、解決に繋がったことがある。福祉員を務めることに対し最初は緊張感もあったが、ちょっとしたときに挨拶するといつの間にか関係ができるということを感じている。

また、社協の職員で台風19号の被災地にボランティアに行っているが、ある区では区長や町会長が状況を把握していて、この家で作業してほしい、この家は力仕事が必要なので男性を派遣してほしい、この家は誰でも手伝うことができる、といった細かいニーズを把握していてボランティアを手配しやすかった。他にも、堤防が決壊した地区ではすべて浸水し誰もいない住宅も多いのだが、区長や隣組長が状況を把握し、ボランティアによる手助けが必要な家とそうでない家が分かっていた。一方である区ではそういったことが全く無く、状況をうまく把握できないため、ボランティアを派遣することも難しく支援が遅れている。このことから、いざというときに隣同士顔が見え助け合える関係を作っておくことが大切と強く感じた。

手法はいろいろで、できれば楽しい仕掛けの中でそういった関係を築いていければいいと思う。

委員 災害などいざという時に普段の関係、地域の繋がりが表れる。お互いさまの人と人との繋がりを普段からつくっておくことがいざという時に力を発揮する。隣組長で福祉員になった時には、いつもよりも少しアンテナを高くしてほしい。

自分の隣組は3軒しかないため、福祉員が3年に1回は回ってくる。福祉員でなくても気に掛ける習慣が周りに伝わっていくことで、地域の繋がりができると思うので、そこを大切にしたい。

委員 自分の住む区は昔ながらの習慣も残っているが、とても仲がいい。移住者が昔から住んでいる人たちに教えてもらい、途絶えていたお祭りを復活させた。昔から住む人たちは喜んで張り切って教えてくれ、子どもたちも楽しく参加した。さらにそのお祭りを子どもの時に体験した人たちが大人になって帰ってきてくれた。また、公民館で餅投げをする際には転入者が餅を投げるようになっていたり、総会で転入者を拍手で迎えたりと、入ってくる人に対して歓迎の雰囲気がある。転入してくる人にもいいところに来たと感じてもらえており、住みやすい区だと自負している。

委員 昔は何かあったときは区役員に言えばいいと思っていたが、今は自分の意識を高めて、グループを作ったりしてコミュニケーションをとっていく必要があると思っている。自分の区には老人クラブがないが、気の合う人たちでグループを作って活動しており、ボランティアで花壇の整備活動などもしている。

また、何かあったら公助に頼ろうと思うのではなく、自分たちで解決できる力を持ったほうがいいと思うようになった。そのためには、子どもを含めた活動が大事である。先日子どもから大人まで参加する堀金の駅伝大会があり、今まで最下位だったチームが高校生の出場者のおかげで入賞した。道には見学者もいて、道沿いの施設の入所者が応援に出てきてくれていた。地域を繋げるいい行事なので続けていきたいと思うが、市からの補助金は削減されている。地域の特色ある取り組みは大切にしたいので何らかの支援をいただくとありがたいとも思っている。

女性消防隊の活動で住んでいる地域以外に行くことも多いが、各地域でそれぞれ違いがあり参考になる。市で統一したものにするよりも、地域性を残していくことも必要なのではないか。

事務局 一人一人が参画するためにはどうすればいいとお考えか。

委員 人と人との繋がりをつくっておくことが大事という話をしに行くと、私は人の世話にはならないという人もいます。隣近所の関係をつくっておくために、常会では区へ加入してい

ない人も参加できるイベント（炊き出し訓練、放水訓練、お茶会）を時々開催するようにしている。区も大事だけれど、核になるのは組といった小さな単位であり、うちの近所ではこういったことをやりました、仲いいですよということを伝えることが重要である。また活動の事例集のようなものがあると参考になるのではないか。区民や組から作っていくことが大切。

委員

福祉事業所を運営しているが、事業所として区費を払い、回覧板を回し、避難訓練に参加している。住んではいないが日中多くの時間をその地区で過ごしており、近所との関係づくりが重要と考えている。「介護保険のデーサービスをやっている事業所です。」という説明をすると自分には無関係と思う方も多いが、防災訓練などの共通理解をいただけるような機会があれば参加し、説明をしていくことで関係性を築いている。

というのも、福祉事業所としてできることがあれば力を貸したいという思いがあり、さらに被災した時には職員だけでは手が足りないので、地区の力を借りたいという思いがあるので、地区の避難訓練に参加し、施設で所有する AED や車いす、ポータブルトイレといった器具を活用していただけるということや、施設に勤務する看護師がお役に立てるということや、有事の際には施設の入居者や職員と一緒に避難しますということや、有事の際には力になれるということや発信するために、平時から使い古した車いす等の器具の寄付といった活動をしている。こうした活動の積み重ねが区民の皆さんと共に生きるということにつながっている。

委員

区の役員も公民館役員も区によってモチベーションが違う。今まで通りやればいいという地区もあれば、新しいことにも取り組んでいきたいという地区もある。区の引き継ぎに関わったこともあるが、案外淡々と行われていたので、感謝の気持ちをきちんと伝えるなど、役員モチベーションに気を使うといった工夫ができるのではないかと思った。

また、区への加入を進めるリーフレットを読んだが、区の役割を説明する資料としての完成度は非常に高いが、実際に住む各区のことが具体的にわからないため、自分が引越してきてこのリーフレットを渡されたとしても、区に入りたいとは思わないという感想を抱いた。このリーフレットとは別に各区で活動の案内ができればいいと思った。

委員

各区の PR ポイントや活動内容を記載した紹介カードを 83 区中 63 区が作成しており、転入者の方に渡している。

自分自身も移住者なのだが、隣組長の人柄がよかったため、区に入りたいと思った。区民のために時間や労力をかけていることをもっと大勢に知ってもらいたい。また、安曇野の景観に惹かれて移住する方も多と思うが、それを守ってきた区の取り組みがあったからこそ美しい景観が保たれているということや地域おこし協力隊の活動の中で知った。地域性なのか、聞けば答えてくれるが、控え目で自ら話す人があまりいないので、区や組長の取り組みに対してもっと自信を持っていただき、活動をアピールしていただきたい。

そのために地域おこし協力隊として何ができるのかが課題となるので、皆さんからアドバイスをいただきたい。もっと連携していくために、この会議のような場が広がっていけばいいと思っている。

委員 隣組が集まってできているのが区であり、そこを大事にしなければいけない。

事務局 今回のテーマは「区の意義をどうやって伝えるか」で、その手法についてや、区の組織論ではなく区民がどうあるべきかといったお話をしていただいた。今日のところで結論が出るものではないので、今日の議論を整理し、次回議論していただく内容を検討していきたい。

③ その他

次回会議予定：12月下旬 15時～